



シンケンスタイルという独自の手法で、1700棟以上の住まいを手がけてきた鹿児島市の(株)シンケン。社長の迫英徳氏は、「居心地のよい家」づくりにはMOISSが欠かせないとおっしゃいます。一目惚れのMOISSを採用する理由とは――。

株式会社 シンケン

私が
MOISSに
一目惚れした理由

鹿児島市下
荒田にある
(株)シンケン
本社



「世の中が求めるものを作ってくれました。 MOISSは理想の建材です」

鹿児島と福岡で、住宅設計・施工・不動産・リノベーションを手がける(株)シンケン。2017年秋には創立40周年を迎え、手がけた住まいは県外も含めて1,700棟を超えてます。

“家族がいつも和やかで、季節ごとに自然の心地よさを感じられる”住まいづくり——迫 英徳社長が掲げるシンケンスタイルの家づくりは、広く注目を集めています。

シンケンでは、MOISS(モイス)を内壁材とする「Mシリーズ」を起ちあげるなど、今では手がける住まいの内壁ほとんどにMOISSを採用しています。



社長がMOISSを知ったのは、15年ほど前。住宅建材に含まれるホルムアルデヒドなどで引き起こされるシックハウス症候群が騒がれていたころです。

「出会って、MOISSに一目惚れです」と社長はにこやかに告白されます。「天然のバーミキュライトを主原料としたMOISSは、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドを吸着してくれます。調湿効果や防火性能もあり、加工もしやすい。さらには耐力壁(地震や台風に強い壁)にもなります。また、役割を終えてもゴミになりません。端材をカットして消臭剤として活用したり、MOISSの粉は肥料として生まれ変わることもできます(農林水産大臣登録肥料)。人と環境に優しい

MOISS。100年という長い目で考えれば、まさに理想の建材です。だから一目惚れしたのです。

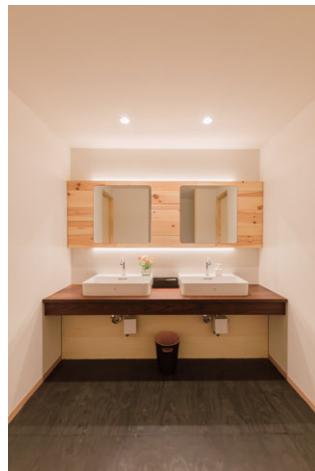
調湿機能のない素材が多く使われる昨今の住宅に対して、迫社長は住まい手の目線での疑問を投げかけます。「例えば、ビニールの肌着を着けると、きっと蒸れて窮屈ですよね。だから通気性があって、肌にもやさしい綿の方がいい。住宅も同じで、自分がいいと思い、納得できるものしかお客様には勧められません。住まいづくりにおいて、人の安息の場を包む素材として何が最良かを考えたら、やはりMOISSに行きつきます」。

じつは今、シンケンでは現本社(鹿児島市下荒田)とは別に、市北部の丘の上に新事務所を建設中です。広大な杉山を切り拓いたその地を“みかん(未完)の丘”と名づけています。“未完”とは「これからも変化し成長できる」こと。むしろ“未完”にこそ意義がある、との想いが込められています。そんな丘に建設中の新事務所にも、MOISSが壁と天井に組まれています。従来のオフィスの常識を超えた、素晴らしい空間が生まれ、その“成長”をMOISSが支えています。



“みかんの丘”に建設中のシンケン新事務所の一室。どの空間も壁はすべてMOISS





「MOISSには表情があり、飽きがこない」 「洗濯物は室内に夜干せば朝には乾く」

同社では、社員がシンケンスタイルの自宅を建てることが増えています。仕事を通じて施主様の暮らしに学び、共鳴を覚えてのことです。そのスタッフの方々に、「住まい手の立場”からMOISSについて感想を伺いました。



柚木 清美氏



住んでみて、MOISSの第一印象は“明るい”ですね。木材の壁に比べて日中、明るく感じます。MOISSの端材は処分しないで、棚板に使えば、脱臭にも有効です。



垣本 崇志氏



まだ住み始めて間もないのですが、洗濯物の室内干して乾きが早いですね。夜に干して、翌朝にはほぼ乾きます。自分で理解はしていましたが、嫁が実感し、感心していました。



宮路 洋平氏



調湿効果もさることながら、脱臭効果に驚きます。シンケンのトイレは用を足しても、ニオイが残りません。MOISSが吸ってくれますから(笑)。



中村 唯氏



MOISSの家に住んで5年になりますが、MOISSの壁は、光の当たり方によって質感や色合いが変化して、表情があります。飽きが来なくていいですね。湿気を吸ってくれるので、梅雨時でも想像以上に快適です。端材は、冷蔵庫内や下駄箱に置けば脱臭になります。



東 正博氏



洗濯物を干したとき、乾燥を促してくれます。逆に、薪ストーブでは乾燥しやすいはずなのに、MOISSが調湿してくれます。ありがとうございます。